

VII 寄宿舍の取り組み

1 研究の方法と計画	121
2 研究の実際	
小学部「衣服の清潔さを維持することで、健康の保持増進に繋がることを理解する」	122
中学部「丁寧な歯磨きで、きれいな歯を目指そう」～自己流マニュアルの作成～	135
高等部「テーブルの布巾がけを行う」	144
3 成果と課題	151

Ⅶ 寄宿舎の取り組み～観点別評価を意識した生活指導実践～

1. 研究の方法と計画

(1) 研究方法

今年度本校寄宿舎では17名（小学部1名、中学部7名、高等部9名）が寝食を共にしながら過ごしている。寄宿舎独自の個別の生活指導計画を基に、職員間で共通確認しながら日々生徒の生活指導に努めている。昨年度は対象児童生徒を各学部より1名抽出して、職員を3グループに編成し、観点別評価を重視した生活指導実践を進めた。

今年度においては①「知識・理解」の弱さ、②「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の評価の難しさ、③子供が学習活動にいかせていない、という昨年度の課題を踏まえ、3つの評価の観点を意識しながら主体的・対話的で深い学びを生活指導の中に取り入れ、職員の生活指導力の向上の質を図ることを目的に研究を進めることとした。また、昨年度と同様の対象児童生徒3名に焦点を当て、職員を3グループに編成し研究を深めていくことを職員間で確認した。各グループ、日々の生活指導で行っている内容を研究テーマに掲げて生活指導実践に取り組んだ。



小学部グループ



中学部グループ



高等部グループ

図1 各グループ話し合いの様子

(2) 研究経過と計画

学期	研究内容
1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度研究取り組み、観点別評価について共通確認 ・今年度研究の方向性について部会にて提案（昨年度と同様の対象児童生徒で研究を進める） ・寄宿舎全体研修「主体的・対話的・深い学び」について ・職員を3グループに編成、生活指導実践様式共通確認 ・各グループ、研究テーマ等について話し合い ・生活指導実践（7月～8月）
2学期	<ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会に向けて各グループ実践発表 ・生活指導実践（9月～11月） ・各グループ実践の成果と課題まとめ ・指定研究に関する評価等に関するアンケート調査・集計 ・舎内最終報告会 ・最終報告会前リハーサル ・最終報告会
3学期	<ul style="list-style-type: none"> ・生活指導継続

2. 研究の実際

生活目標:衣服の清潔さを維持することで、健康の保持増進に繋がることを理解する

～豊かな社会生活を送るために～

メンバー：大見謝匡、親泊さゆり、上原秀哉、喜納愛利

対象舎生：Aさん（小学部6年生）

1. 生徒の実態

入舎3年目。本児は、寄宿舎生活で日課や余暇活動で体を動かす機会が多いため、たくさんの汗をかいている状況が多々見られる。そのため、衣服が汗でびしょりで汗臭くなりがちだが、衛生面に対する意識が低いため、着替えしないで活動をし続けることがある。また、自身の皮膚の状態を気にせず、不衛生のまま過ごすことがある影響で皮膚に発疹や汗疹ができています。

2. 生活目標設定の理由

本児は、衣類の分別（汚れている物とそうでない物）をしないで鞆に入れたり、汗をかいていたりしても心理的要素が働いて着替えを行わないことがある。寄宿舎では、職員の言葉かけや日課の場面に応じて着替えることはできるが、自ら考えて着替えることは難しい。また、汚れている衣服を着用し続けることで、皮膚に発疹や汗疹ができ本児の健康にも影響を及ぼしていると思われる。

本児が、健康的で豊かな社会生活を送るためにも、身だしなみと衣服の保清に関する知識を身につけ、衣服や身体を清潔に保つことで健康の保持増進に努めることができると考える。

以上のことから本生活目標を設定する。

3. 生活目標における観点別目標

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
目標	衣服の清潔さと、清潔さが身体に与える影響を理解できるようにする。	衣服や身体を清潔に保つために、自身の状態を把握しその時々で必要な行動ができるようになる。	自ら意識して衣服や身体の状態を理解し、健康の保持増進に努める。

4. 指導計画と評価計画

主な活動	評価の観点		
	知識・技能	思・判・表	主体的
1. 衣服や身体が清潔・不潔の様子を、実物や写真・イラスト等を使用し、視覚や嗅覚で理解できるようにする。	○		
2. 衣服や身体の清潔さを保つことで、健康の保持増進に繋がることを理解する。	○		
3. 自分の衣服や身体の状態を考えて、チェックリストを使用しながら、必要な行動をとることができるようにする。		○	○
4. 自ら考えて衣服や身体の状態を理解し、必要な行動をとることができるようにする。		○	○

5. 評価基準

知識・技能	◎衣服や身体の清潔な状態が、健康の保持増進に繋がることが分かる。 ○衣服や身体の清潔・不潔が、どのような状態か分かる。 △衣服や身体の清潔・不潔について理解できていない。
思考力・判断力・表現力	◎自分の衣服や身体の状態を理解し、適切な行動選択ができる。 ○職員と相談しながら、適切な行動選択ができる。 △自分の衣服や身体の状態や状況を理解できていない。
主体的に取り組む態度	◎自ら意識して、学校内外で衣服と身体の清潔さを保ち、健康の保持増進に努めることができる。 ○職員が本人に気づかせるような言葉かけを行い、本人が衣服や身体の汚れに気づき、清潔さを保つための行動選択ができる。 △1職員が本人に気づかせるような言葉かけを行い、本人が衣服や身体の汚れに気づくことはできるが、必要な行動選択ができない。 △2衣服や身体の清潔さを保つための行動選択ができていない。

6. 生活指導改善のポイント

	方法	観点との関連
主体的	①学習の始めに衣服の清潔さについて学ぶ意義を知る。 ②学びの計画について知り、最終的に自ら考えて衣服や身体の状態を理解し、必要な行動をとることができるようになるための学習を行う。	「知識・技能」 「主体的に取り組む態度」
対話的	①ワークシートを用いて「知識」を習得するだけでなく、実物やイラスト等を見て職員と対話をする中で、自らの考えを広げたり、深めたりする。 ②広げ深められた知識から衣服や身体の状態を判断し、健康の保持増進に繋がることが理解していけるようにする。	「思考・判断・表現」
深い学び	①習得した「知識・技能」を基に、自身の衣服や身体の清潔さを維持するためには、どのような行動選択を取る必要があるのかについて、自分なりの考えを持てるようにする。 ②自分が獲得した身だしなみと衣服に対する保清についての「知識・技能」を基に「着替える判断チェックシート」を製作することで、状況に応じた行動選択を取れることを目指す。	「知識・技能」 「思考・判断・表現」 「主体的に取り組む態度」

7. 研究の実践

日付	職員の手立て	生徒の様子	観点別評価
8月17日 (月) ～ 8月20日 (木)	1:対話 <入浴前> 嗅覚・視覚を活用して衣服の状態が清潔か不潔かを理解できるようにするために対	1:対話 <入浴前> 活発に活動した後、本児の衣服は汗でびっしょりの状態であった。	・衣服に関しては臭いを嗅いだり触って確かめたりすることで、衣服の清潔・不潔さ

<p>9月28日 (月) ～ 10月8日 (木)</p>	<p>話する。 <入浴後> 着用している衣服と洗濯する衣服を使用して、汚れているかどうか嗅覚や視覚で判断できるか確認するために対話する。 <就寝前> 活動が少ない中でも自分の衣服の状態を理解できているかを確認するため対話する。</p> <p>2：ワークシート 身体の状態や衣服の清潔・不潔について、また、汗疹になる原因を理解できるよう、写真やイラストを見せながら理解を深める。更に振り返りを行い、不潔さが周りに与える影響についても触れながら、衣服や身体の清潔さを保つことで、健康の保持増進に繋がることを理解する。 【資料1～4】</p> <p>3：場面設定 日課の流れのタイミングで着替えている様子が見受けられるため、入浴を先に済ませ、その後の活動で本児が身体や衣服の状態を理解して、どのような行動選択を行うか様子観察を行う。</p>	<p><入浴後> 本児は衣服の臭いを嗅ぎながら汚れ物を探すと同時に、触りながら汗で濡れているかどうか確認していた。</p> <p><就寝前> 身体を活発に動かすような活動を特にしていなかったため、汗をかいていなかったが、「歯磨き粉が付いたから」という理由を自分でしっかり考えて伝えることができた。</p> <p>2：ワークシート 汗疹、とびひについては「かゆそう、痛そう」という発言があった。自身の首の後ろが白くなっている（汗疹の痕）写真を見て、「ちゃんとこすってないからブツブツになっていると思う」と回答。汗をかいた衣服を着ている時の自分の気持ちについて、「つけたくない」別の日は「なにも思わない」といった回答があった。</p> <p>3：場面設定 実際、草や土で遊んだ後にもかかわらず、「汗はかいていないから」という理由でそのまま布団に入ろうとした。汗をかいて衣服がびしょり濡れている場面では自ら着替えていた。</p>	<p>や、それがどのような状態か理解している。 しかし、不潔さに対しての抵抗感が薄い。 【知・技】【思・判・表】</p> <p>・汗をかいていなかったが、衣服が見た目で汚れていると判断して着替えることができた。【思・判・表】</p> <p>・写真を見て汗と汗疹の区別、重症度の判別、重症化する理由については理解している。 ・汚れた衣服を着続けると汗疹ができたり臭くなることを理解している。 ・不衛生な状態から汗疹になることを理解している。 【知・技】</p> <p>・衣服の汚れが『目に見えない＝汚れていない』、『汗をかいている＝汚れている』と認識している。 ・汗をかいたまま着替えないと「ブツブツになる」「臭くなる」と、身体に及ぼす影響を理解している。 【知・技】</p>
--	--	---	--

	<p>4：絵カード 本児が着替えた時、着替えなかった時の行動の振り返りとして絵カード（着替えた ver. 着替えない ver.）を使用しながら対話し、実生活と結びつけながら、見通しを示す。 【資料 5～6】</p>	<p>4：絵カード 着替えた ver. の絵カードで今の状態に当てはまるものとして、「いい気持ち」「きれいなひと」「モテる」のカードを選択。また、着替えない ver. の絵カードでは「きもちわるい」「ブツブツになる」「びょういん」「おかねがかかる」「くすり」のカードを選択。絵カードから、着替えて身体を清潔にできれば、今までかかっていた病院代や薬代のお金を、大好きな釣りに使えることを学んだ。</p>	<p>・身体に及ぼす影響のみならず、今まで獲得してきた知識を、更に深めたり広げたりして、実生活に結びつけて考えることができている。 【知・技】【思・判・表】</p>
	<p>5：週末の振り返り 寄宿舎での実践が家庭でも活かされているか、振り返りを記入したり対話を通したりして確認する。</p>	<p>5：週末の振り返り 入浴や歯磨きをしなかった日はあったが、着替えはしていた。しかし、夜遅くなったり忘れてたりするという理由で入浴していない日があり、寄宿舎ではみんなでやるから自分もやると話している。また、毎日入浴したほうがよいかは「分からない」と答えている。</p>	<p>・家庭では自分で判断して着替えている。【主体的】</p>
<p>10月12日 (月) ～ 10月22日 (木)</p>	<p>6：☆心もからだもきもちよく☆シート <着替えたい Ver. 着替えたくない Ver. 着替えた Ver.>を使用し、場面に応じた考えや行動を理解する。 【資料 7～10】</p>	<p>6：☆心もからだもきもちよく☆シート <着替えたい Ver. シート>活発に動いた後、「着替えたい Ver.」シートを選択。汗をかいている自身の状態は理解していたが、すぐに入浴するからということで着替えなかった。</p>	<p>・日課の流れや入浴までの時間を考えて着替えるか否かの判断をしていた。 【知・技】【思・判・表】 【主体的】</p>

	<p>7: ホワイトボードで状態確認・行動選択</p> <p>ホワイトボード（どんなきもち？どうする？）を使用し、身体や衣服の現在の状態を理解させ、その後、状態に応じてどのような行動選択をとるか観察。対話をしながら着替えたことの振り返りを行い、適切な行動選択を促す。</p> <p style="text-align: right;">【資料 11】</p>	<p><着替えたくない Ver. シート></p> <p>清掃後、大量の汗をかいていたにも関わらず、これから入浴するからという理由で「着替えたくない」という行動を選択した。別の日、就寝前には入浴後からそんなに活動していないという理由で着替えたくないと話していた。</p> <p><着替えた Ver. シート></p> <p>就寝前という場面で、衣服や身体が汚れていなかったが、なんとなくという気持ちで着替えた。別の日、「くさい」「濡れていた」「汚れていた」と話していた。</p> <p>7: ホワイトボードで状態確認・行動選択</p> <p>衣服が汗で濡れている状態で現在の気持ちと、どう行動選択をとるのかを確認すると、気持ちは「とくにない」と答え、「きがえない」という行動を選択したが、しばらく考えた後に、「あせくさい」「ふくがくさい」「ふくがよごれている」と回答。「どうする？」の問いに、「きがえる」と答えて着替えをした。</p> <p>別の日、就寝前に自ら着替えたことを振り返り、「着替える前はどんな気持ちだったのか」の問いに「あせくさい」「ふくがぬれている」「ふくがくさい」と回答。「どうする？」の問いには「きがえる」と答えた。</p>	<p>・自身の衣服と身体状況を判断して着替えることができた。</p> <p>【知・技】【思・判・表】 【主体的】</p> <p>・日課の流れの中で着替えている様子もうかがえた。</p> <p>・心理的要素（面倒くさい）が働き、自身の状態を汚れていないと話していたが、考え直して自身の状態を理解し適切な行動選択を行うことができた。</p> <p>【思・判・表】【主体的】</p>
--	---	--	--

職員の成果

1:対話

- ・本児は臭いを頼りに衣服の状態を見極めようとしていたが、職員の言葉掛けで衣服を触り、衣服の見た目で見極めようとする行動に移すことができた。
- ・当初、「臭い、濡れている」と言っていたが、後半になると「着替えるのが面倒くさい」など心理的な要因と思われる発言を引き出すことができた。

2:ワークシート

- ・ワークシートを通して、自身の身体にできる汗疹についての知識が現時点でどの程度あるのかを確認することができた。
- ・本児の実態と照らし合わせながら、ワークシートを通して不潔さ・清潔さが自身の身体への影響について知識を深めさせることができた。

3:場面設定

- ・場面を設定した結果、“目に見えない汚れ”に対する認識が難しいことが分かった。その一方で、衣服の状態を判断し身体への影響を考えて着替えることもできていたので、学んだ知識を使える知識として実践できている。

4:絵カード

- ・自分の気持ちや、考えたことを絵カードで表現できており、知識や判断力が身についている。また、本人の考えを広げたり深めたりする機会を設けることができた。

5:週末の振り返り

- ・入浴しない日があるため、本人の活動量から考えると、入浴も習慣化できるように今後に繋げていく必要があると感じた。

6:☆心もからだもきもちよく☆シート

- ・これまで習得してきた知識と技能を活用し、シートの項目から自身の身体や衣服の状態について該当する箇所に○を記入することができた。また、自分で項目事項を考えるなど、行動選択の幅を広げることができた。
- ・自ら職員に声を掛けてシートを記入するなど、主体的な学習活動を行えるようになった。シート記入をしながら、学びと振り返りを繰り返すことで本人の適切な行動選択に繋げることができた。

7:ホワイトボード掲示(居室内)で身体と衣服の状態確認・行動選択

- ・一旦は「面倒くさい」という心理的要素が働き、着替えようとしなかったが、考え直して今の自身の状態を理解しようと努めた態度は、これまでの指導の積み重ねが活きた瞬間だと感じた。更に、着替えることもできたので、本児の学びの成長を感じた。

8. 生活目標における観点別目標と評価

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
目標	衣服の清潔さと、清潔さが身体に与える影響を理解できるようにする。	衣服や身体を清潔に保つために自身の状態を把握しその時々で必要な行動ができるようになる。	自ら意識して衣服や身体の状態を理解し、健康の保持に努める。
評価	○	○	○
	衣服や身体の清潔・不潔が、どのような状態かわかる。	職員と相談しながら、適切な行動選択ができる。	職員が本人に気づかせるような言葉かけを行い、本人が衣服や身体の汚れに気づき、清潔さを保つための行動選択ができる。
目標に対しての成果と課題	(成果) 衣服の状態を判断し、身体への影響を考えて着替えることもできていたので、学んだ知識を使える知識として実践できている。	(成果) 状況に応じて自分なりに考えて着替えるか着替えないかの判断をしている。	(成果) 職員による言葉かけや支援ツールを利用すると、自身の身体や衣服の状態を理解して行動選択をし、清潔な状態にできる時もある。
	(課題) “目に見えない汚れ”に対する認識は難しく、不潔さに対しての抵抗感が薄い。	(課題) 知識が頭の中に入っているように思われるが、日課の流れのタイミングや「なんとなく」という感覚で着替えていたり、面倒くさくて着替えたくないという心理的要素もある。	(課題) 自ら意識することがあまりみられず、健康の保持に努めるまでにいたっていない。

9. 実践研究を通しての成果と課題

(成果)

- 生活指導改善のポイントを明確にしたことで、学びの意義や計画など見通しを持って学習活動に取り組むことができた。
- ワークシートだけでなく実物やイラスト、職員との対話や振り返りを通して自ら考え判断ができるような学習活動を行うことができた。
- 「面倒くさい」という心理的要素が働いても、適切な行動選択を取ることができつつあり、学びの意識化が見られるようになった。
- 共通した指導をベースに対象舎生の負担にならない範囲で、職員がそれぞれの実践方法でアプローチし、指導実践のバリエーションを広げることができた。
- 職員間で対象舎生の実態、現状などを共有し、指導方法や評価に関する観点の共通理解を図ることができた。
- 知識の習得や思考力・判断力・主体性を発揮する生活場面を意識的に設定していくために、職員側が3

観点を意識して取り組むことができた。

- 場面設定や教材作成等、職員が指導方法について話し合い、意欲的に指導実践を行うことができた。
- 今後も職員間で舎生の実態、現状などを共有し、共通した支援方法で取り組んでいく有効な手立てになることが確認できた。
- 寄宿舎指導員特有の勤務態勢の中、空いた時間でのミーティングや会話の中でできる限り職員間で情報共有を図り、共通したベクトルで取り組むことができた。

(課題)

- 新型コロナによる休校や分散在舎等、生活指導実践期間が当初予定より短くなったことで、研究の前半は学びの意義や計画など、学習の見通しを持たせる活動に時間をかけることができなかった。
- 学習活動を通して学びの意識化は見られつつあるが、適切な行動選択を取るには今後も継続した指導が必要である。
- 週明けの帰舎時には不衛生なことがあるため、週末の生活習慣等に課題がある。家庭との連携が必要。
- 寄宿舎職員は部屋担当制・シフト制であり、対象舎生の部屋担当でない場合に細やかな指導が行き届かない難しさがあった。
- 評価の基となる「個別の生活指導計画」とどう結びつけていくのか。様式や記述方法等。

<衣服>

なまえ

1. ①と② どちらをつけたいですか？



②

2. なぜ そうおもいますか？

すれし

3. このまま ようぶくをつけたら、どうなるとおもいますか？



くすし、とんじおし、
かみ

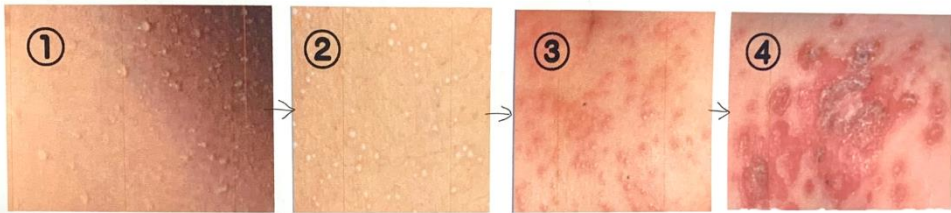
4. うえの ようぶくとしたの ようぶくを つけているときの きもちは、どんな きもち
ですか？



【うえ】 だたたい
【した】 うれしい

<身体>

なまえ



1. あせは ①②③④ のどれだ おもいますか？

2. なぜ このくすりを ぬっているんですか？



①

あせもかいてないため

3. あせをかいても きがえなかつたり、お風呂にはいらなかつたら、からだはどうなると おもいますか？

4. なぜ しろくなっていると おもいますか？



あせもかいていけなかつたら
あせもがまじかくなる

すこしく、つづいていける

①

8月19日実施

1. よくれた ようぶくを つけつづけると...



ふとんに ばいせんに ついて くさくなります

2. あせをかいても きがえなかつたり、お風呂にはいらなかつたら、からだはどうなると おもいますか？



あせもが できてしまいます。④になると ひとつにも うつります。

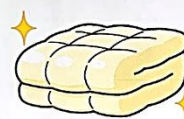
②

8月19日実施

資料-3



3. きれいな ようぶくを つけると ...



ふとんは...
きれいになる



あせもは...
なくなる

においは...
いいにおい

①





<衣服> 名前: _____

1. ①と②どっちをつけたいですか?




①  ②  ②

2. なぜ そうおもいますか?

3. このまま ようふくをつけつづけたら、どうなると おもいますか?

4. うえの ようふくとしたの ようふくをつけているときの きもち、どんな きもちですか?





  

【うえ】 _____

【した】

②

<身体>

①  ②  ③  ④ 


1. あせは ①②③④の どれだと おもいますか?

2. いちばん ひどいのは①②③④の どれだと おもいますか?

3. なぜ このくすりを ぬっているんですか?

4. あせをかいても きがえなかったり、お風呂にはいらなかったら、からだは どうなると おもいますか?

5. なぜ しろくなっていると おもいますか?






③

<まとめ>



1. あせをかいても きがえなかったり、お風呂にはいらなかったら どうなると おもいますか? したの①か②どちらかに まるをつけてください。


・ふとんは...

①ばいきんが ついて  



②ふとんは 


・からだは...

①  


② 


・あせもは...

①  


② 


・どんな きもち?

① 

② 

・けんこうには...



① 


② 

④



2. あせをかいたあと、きれいな ようふくに きがえたり、お風呂にはいると どうなると おもいますか? したの①か②どちらかに まるをつけてください。


・ふとんは...

①  



② 


・からだは...

①  


② 


・あせもは...

①  


② 


・どんな きもち?

① 

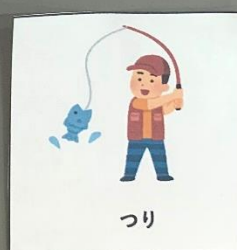
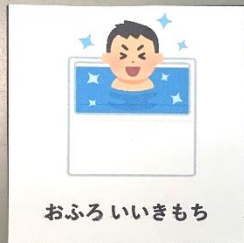
② 

・けんこうには ?

① 

② 

資料-5



資料-6



資料-7

☆心も からだも きもちよく☆ シート

第1～2段階用【習覚えて Ver.】

じかん(日時)	10/9 20:15	10/9 20:19							
きかえた	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>							
あせくはかった		<input type="radio"/>							
からだか ぬれてた		<input type="radio"/>							
ぶつぶつ かかっていた									
ぶつぶつ いやだ		<input type="radio"/>							
あくが くさかった		<input type="radio"/>							
あくが ぬれてた		<input type="radio"/>							
あくが よこれてた		<input type="radio"/>							
やあして あけをみる									
あそぶ あけから	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>							
わからない		<input type="radio"/>							
なんの はく	<input type="radio"/>								

資料-8

☆心も からだも きもちよく☆ シート

第1～2段階用【習覚えて Ver.】

じかん(日時)	10/5 16:15								
きかえた	<input type="radio"/>								
あせくさい	<input type="radio"/>								
からだか ぬれてる	<input type="radio"/>								
ぶつぶつ かか									
ぶつぶつ いやだ	<input type="radio"/>								
あせくさい	<input type="radio"/>								
あくが ぬれてる	<input type="radio"/>								
あくが よこれてる	<input type="radio"/>								
やあして あけをみる									
きかえる									
あそぶ あそ	<input type="radio"/>								

資料-9

☆心も からだも きもちよく☆ シート

第1～2段階用【習覚えて Ver.】

じかん(日時)	10/9 16:30	10/5 20:06							
きかえたくない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>							
あせくさい	<input type="radio"/>								
あせくくない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>							
からだか ぬれてない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>							
ぶつぶつ かかくない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>							
ぶつぶつ すき									
あくが くさくない		<input type="radio"/>							
あくが ぬれてない		<input type="radio"/>							
あくが よこれてない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>							
あそぶ あそ	<input type="radio"/>								
はいから									

資料-10

☆心も からだも きもちよく☆ シート

第3段階用

じかん									
きかえたい									
きかえたくない									

生活目標：「丁寧な歯磨きで、きれいな歯を目指そう」～自己流マニュアルの作成～

メンバー：金城良、上原愛美、黒島新、仲宗根由乃

対象舎生：Bさん（中学部3年）

1. 生徒の実態

入舎3年目。療育手帳はB2、WISC-IVでIQ54（H29年実施）と診断されている。生活経験のあることに関しては、周囲の様子を覗き流れに乗って活動することはできる。しかし、職員からの問いかけに対して返答ができないことや、質問の意味を理解できていない様子があるため、本人の理解度にあわせて具体的な例示や行動見本を示すなどの支援が必要である。

現在、歯磨きはほぼ自立しており（手鏡・タイマー使用）、磨き残しがあると職員の言葉かけで意識して磨くことができる。

2. 生活目標設定の理由

前年度の取り組みの成果で、磨き残しをなくそうと意識する素地ができつつあり、それを土台に「丁寧に磨くことで、磨き残しをなくす」を意識することができると考えた。本人も、今年度の目標を「きれいな歯を目指して頑張る」と掲げている。目標へのモチベーションも高いため、その思いに寄り添いながら、本人が理解できる内容の指導・支援の方法を模索し、学部職員や家庭と連携を図ることとした。

3. 生活目標における観点別目標

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
目標	歯磨きの必要性を意識しながら磨くことができる。	自ら歯ブラシを使い分けて丁寧に磨くことができる。	自らきれいな歯を意識し丁寧な歯磨きができる。

4. 指導計画と評価計画

主な活動	評価の観点		
	知識・技能	思・判・表	主体的
①歯磨きの必要性や磨き方について本人と確認する。	○		
②帰舎日と帰省前日に染め出しで磨き残しを確認しチェックシートに記入、振り返りを行う。	○		
③歯ブラシの種類を使い分け、丁寧な磨き方を習得する。		○	
④職員の支援等を受けずに自ら意識して歯を磨く。			○
⑤自己流マニュアルを作成し、活用する。	○	○	○

5. 評価基準


知識・技能	◎ 歯磨きの必要性を意識しながら磨くことができる。 ○ 丁寧な歯磨きの仕方を身につけることができる。 △ 歯磨きの必要性が理解できる。
思考力・判断力・表現力	◎ 自ら歯ブラシを使い分けて丁寧に磨くことができる。 ○ 職員の言葉かけで、歯ブラシを使い分けて磨くことができる。 △ 以前から使用している歯ブラシで磨くことができる。
主体的に取り組む態度	◎ 自らきれいな歯を意識し丁寧な歯磨きができる。 ○ 職員の言葉かけなしできれいな歯を意識した歯磨きができる。 △ 職員の言葉かけできれいな歯を意識した歯磨きができる。

6. 生活指導改善のポイント

	方法	観点との関連
主体的	① 学びの始めに歯磨きの意義について知る。 ② 学びの最後に自己流マニュアルを作成し、実践することを目標に日々の歯磨きを行う。	「主体的に取り組む態度」
対話的	① 丁寧な歯磨きの仕方について教わることで「知識・技能」を習得する。 ② 日々の歯磨き指導の中で歯磨きの必要性等、本人と確認する。	「知識・技能」 「思考力・判断力・表現力」
深い学び	① 学びの最後に、習得した知識や技能を生かして自己流マニュアルを作成することで、本人の変化を自信に繋がられるようにする。	「知識・技能」 「思考力・判断力・表現力」 「主体的に取り組む態度」

7. 研究の実践

● 7月13日（月）～7月31日（金）実態把握

手立て	染め出しでの所見
I) <u>休み明けのみ</u> 染め出しを実行。自分自身の歯の形状とチェックシートを照らし合わせ、磨き残し箇所を赤色で記入。その後、磨き残し箇所を職員と一緒に確認。	7月13日から3週間にわたり、現段階の歯磨きの実態把握を行った。 在舎中は、タイマーや鏡を使用して磨く意識はあるが、丁寧さに欠ける。自宅での歯磨きを怠っている様子もあり、週明けの染め出しで、以下の実態が確認できた。
II) 前回のチェックシートを活用し、磨き残し箇所を意識して磨くよう声かけ。	 <p>●チェックシートの記入</p>
III) 最後に仕上げ磨き時に、鏡を見せながら細部の磨き方を指導	

●染め出し(7/13)



- ① 歯並びが悪い箇所(左上犬歯、第1・第2小白歯)、歯間や歯肉溝の磨き残しが多いこと
- ② 正しい歯ブラシの当て方や角度を知らないこと
- ③ 磨く箇所に偏りがあること
- ④ 週末の自宅での歯磨きが定着していないこと

8月の実践に向け、本人の目標「きれいな歯を目指して頑張る」に沿って、指導計画と評価計画を立てた。

●犬歯、第1・第2小白歯の磨き残し(7/13)



●犬歯、第1・第2小白歯の磨き残し(7/27)



●手鏡を見ながらの歯磨き



●8月17日～21日(実践1週目)

活動・生徒の様子	手立て
<p>① 夏季休業と臨時休業期間を終えて、最初の休み明け。染め出しを行い、磨き残し箇所の確認を行った。本人は「休みの間、1日3回歯磨きをした」と話していたが、多くの歯に磨き残しが見られた。また、各用語(歯の裏、表、噛み合わせ等)が実際どの場所を指すのか理解できていない様子がみられた。</p>	<p>① 夕食後、一度自分で歯磨きを行った後に染め出しを行う。手鏡やカメラ等を使用し、染め出された自分の歯を見ながらチェックシートに記録する。磨き残し箇所と歯ブラシの当て方について、職員と一緒に振り返りを行う。</p>
<p>② 今週は、歯磨き指導用の動画を見ながら歯磨きを行った。</p>	<p>② 特に磨き残しがある箇所を意識して歯を磨くよう、言葉かけを行う。</p>
<p>③ 8月18日に歯磨き学習会を実施。歯の模型を使用して本人の磨き残しが多い箇所を再確認することができた。また、説明の際は、本人が理解しやすい単語を使う必要があると感じた。</p>	<p>③ 学習会を行い、歯磨きの大切さや必要性について再確認する。</p>
<p>④ 帰省前日の染め出しでは、休み明けの時と比べて磨けている箇所が多く見られた。</p>	<p>④ 染め出しで磨き残しを確認し、チェックシートへの記入と振り返りを行う。</p>
<p>⑤ 歯ブラシの使い方(持ち方や当て方、角度等)についても、繰り返し確認しながら指導していく必要があると感じた。</p>	

⑥ 寄宿舍では、自らタイマーを用意して歯磨きを行うなど、しっかり歯磨きをしようと意識している様子が見られた。

●模型で磨き方を再確認



●休み明けの染め出し (8/17)



●動画を見ながらの歯磨き



●学習会の実施 (8/18)



●帰省前日の染め出し (8/20)



●学習会の感想用紙

歯みがき学習会 感想用紙

名前 XXXXXXXXXX

★今回の学習会でどういことを学びましたか？

口のぐわり ましは
はをみがく ましげにならない

★今回の学習会の感想を記入して下さい。

口はくまくなりたくない
もっとはみがきをがんばりたい

★学習会を終えてもっと知りたいことや聞きたいことはありますか？

●歯磨きチェックシート(帰省前日)

歯みがきチェックシート

令和2年8月20日

室氏名 XXXXXXXXXX

わーの口

上

下

左がわ 右がわ

わーの口

上

下

左がわ 右がわ

【自分で評価をしよう！】

歯の数をみがけていますか？	かんべき・あと少し・まだまだ
歯の裏をみがけていますか？	かんべき・あと少し・まだまだ
歯と歯の間(歯間)はみがけていますか？	かんべき・あと少し・まだまだ
歯茎と歯の間はみがけていますか？	かんべき・あと少し・まだまだ
八重歯はみがけていますか？	かんべき・あと少し・まだまだ
お口のゆがみはなおりましたか？	かんべき

●9月14日～10月8日 (実践2～5週目)

活動・生徒の様子	手立て
<p>※ 学期末休み・分散在舎により、約3週間は自宅にて自身で歯磨き動画の教材を見ながら実践。</p> <p>① 道具(手鏡・タイマー)を使用。周囲が気になり、落ち着かない様子。歯を閉じた状態で、歯ブラシを大きな円を描くように動かして表側を磨いている。縦磨きが定着しつつある。</p> <p>また、タイマーを基本3分間セットしているが、日によって、3分、約10分と不規則。</p>	<p>① (歯磨き教材動画の使用を3週目まで継続。動画撮影をしながら歯磨きをしてもらった。)</p> <p>毎回、磨く前に磨き残しが多い箇所を確認し、丁寧に磨くよう声かけ。</p>

<p>② 「お家でも歯磨きをちゃんとしたよ」と話していたが、久々の染め出しでは、磨き残しが多く見られた。特に、右上側切歯（2番）・犬歯（3番）・裏側、歯間、歯茎の間に色が濃く残っている。</p> <p>③ 染め出し液が付いた歯を、小さく歯ブラシを動かしながら、磨いている。色が付いていると、色をどう落とすかを自分なりに考えて、工夫し、丁寧に磨こうとする姿勢がみられた。裏側を磨くよう声かけをした際、動きが止まり戸惑いを見せている。毎回、磨き残しがある、歯並びが悪い箇所（左上犬歯、第1・第2小臼歯）も苦戦している様子が覗えた。</p> <p>④ 職員による仕上げ磨きを、手鏡越しで見て歯ブラシの動きを再確認。</p> <p>⑤ チェックシート記入後、振り返りを行う。</p> <p>⑥ 帰省前日は、歯の表・裏側の磨き残しはほとんどなく、歯間、歯茎との間等の細かい箇所に見られた。</p>	<p>② ③④染め出し液で、濃く色が付いた箇所を、一緒に確認しながら磨く。「歯の裏側」という言葉と自身の歯が結びついていない様子。（写真や図でも同様。）その為、仕上げ磨きの際、歯の名称を言いながら、各箇所の磨き方を指導。</p> <p>⑤ チェックシート記入後、これまでのシートで振り返りをした際、毎回磨き残す箇所が同じである為、歯ブラシのヘッド大きすぎて、動かしにくいいため磨きにくいのではと考察。 学校歯科検診の結果より、養護教諭からも、「小さめの歯ブラシで磨いてみましょう」と助言があり、保護者にその旨を伝え、本人に合った小さめの歯ブラシの準備を依頼。また、普段の歯ブラシによる磨く技能が定着しつつあるので、次の段階としてより丁寧な歯磨きに以降。 細かい箇所を磨く為の専用歯ブラシの準備も依頼。</p> <p>★ 保護者や学級担任に、歯磨きの成長過程を連絡帳にて報告し、情報共有。また、保護者には週末自宅での歯磨きの取り組みを確認。</p>
---	---

● 休み明けの染め出し（9/14）



● 休み明けの染め出し（9/28）



● 休み明けの染め出し（10/5）



● 帰省前日の染め出し（10/8）



● 10月12日（月）～10月15日（木）（実践6週目）

活動・生徒の様子	手立て
<p>① 道具（手鏡・タイマー）を使用。歯ブラシの持ち方を、磨く箇所によって変えている。歯ブラシの動かし方も、小さく動かしている。</p>	<p>①（動画撮影をしながら歯磨き） 特にこちらから声かけせず、本人に磨いてもらい、これまでの知識・技能を目視で確認。</p>

② 染め出しチェックをするも、以前同様休み明けの12日は、磨き残しが多い。特に、歯間や右上側切歯（2番）・犬歯（3番）、には濃い色が付いている。本人より、「自宅では動画を見ながら、毎回磨いた」と話している。染め出し液が付いた歯を、丁寧に時間をかけて磨いている。

③ 10月15日

前回の歯磨き指導で学んだことが活かされており、染め出しにて、ほとんど磨き残しは見られなかった。時間も、いつもより長めに磨いている。

④ これまでの撮影動画を見て、振り返りを行った。よい点では、以前に比べ、磨き方に工夫が見られ丁寧になりつつある。改善すべき点は、周囲の動きが気になり集中できず、同じ場所を何度も磨く等の、磨き方に偏りがあることを確認。しかし、自身に偏りがあることや動かす大きさ等が、磨き残しの多さと結びついていない様子。

⑤ 歯の模型を使用し改善点を説明後は、少し理解できたようである。更に磨き残し対策としてオリジナルの歯磨き手順表の組立を行った。絵カードの順番を何度も並べ直し、手順表を完成させた。

② 歯ブラシの毛先の当て方が不十分な為、磨く箇所によって歯ブラシの先・かかどを使って磨くよう指導。仕上げ磨き、チェックシート記入時に、磨きにくい箇所を指摘し、他の歯より丁寧に時間をかけて磨く必要性を本人と確認。時間に関して、3分は現在の技能で、丁寧に磨くことは難しいのではと感じた。

③ ④⑤歯磨き終了後に対話形式で、これまでの撮影動画を見てもらい、振り返りを行った。磨き方の、よい点・改善点を確認。磨き方に偏りがあることについて、改善策として、絵カードを用いて自己流マニュアル作成を提示。絵カードを磨きやすい順番に並べてもらい、次週より実践することになった。また、歯の模型を使用し、作成した手順と再度歯ブラシの毛先の当て方を確認。初めの頃に比べて「歯の裏側」等、歯の場所を表す言葉を理解している様子だった。

●模型で歯ブラシの動かし方を確認




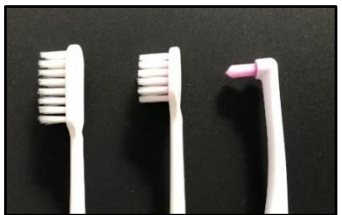
●休み明けの染め出し（10/12）

●帰省前日の染め出し（10/15）

●歯磨き手順の「自己流マニュアル」を、本人自ら考えて作成



● 10月19日～11月5日（実践7～9週目）

活動の様子	手立て
<p>① 前回作成した、マニュアルを見ながら歯磨きを行う。絵カードに書かれた「10回」を守り、一通り磨いている。歯ブラシの持ち方、各歯の歯ブラシの当て方は改善されている。</p>	<p>① 磨く前に、マニュアルの順番・磨く箇所の再確認を行った。</p> 
<p>② 10月26日（タフトブラシ初使用時） 新しい歯ブラシの説明を真剣に聞いていた。その後、実際に手に持ってタフトブラシを不思議そうに眺めていた。歯磨きを促すと手鏡を見ながら、タフトブラシを使用して磨きにくい部分の歯を磨いている。写真で磨き残し部分を確認してチェックシートを完成させ、自己評価も一項目ずつ確認しながら○付けを行っている。歯磨きの満足度について、本人の満足度は5段階評価でいうと5と答えている。</p>	<p>② 本人と毎回磨き残している部分を確認し、新しい歯ブラシ(コンパクトヘッド×1、タフトブラシ×1)の使い方について説明。染め出し後の仕上げに使うように伝えて手渡す。タフトブラシの当て方を手鏡で見ながら一緒に確認した。 染め出しの写真を見ながら磨き残し部分を記入するよう促す。歯磨き満足度を5段階評価で本人と口頭確認した。</p>
<p>③ 10月29日 染め出しが近づいてくると、そっぽを向き涙目で染め出しを拒否していた。部屋担当に「自信がない」「家で頑張って週明けに染め出ししたい」と本人なりの理由を伝え、研修担当にも理由を伝えるように促されている。本人の意思を尊重すると伝えるとほっとしたような様子だった。</p>	<p>③ 帰省日前日の染め出し準備。染め出しの拒否理由について尋ねている。理由を確認し、今回は染め出しを行わないという本人の意思を尊重すると伝えている。</p>
<p>④ 11月5日 週初めの状態と比べると、磨き残しは少なくなっている。普段使用している歯ブラシと、手鏡を用いて磨いていたため、職員の言葉かけ後に「タフト」を使用して、特に磨き残しがある部分を丁寧に磨いていた。目標に対する自己評価について、「まだ十分に磨けていない」ようで、点数をつけるとするなら3点/5点と話していた。また、歯磨きへの取り組み(研修)について“大変だな”と感じることがあったようである。</p>	<p>④ 帰省前日の染め出しで磨き残しを確認しチェックシートに記入、振り返りを行い、現段階でどれくらい磨けているかを本人と確認する。</p>  <p>●左)以前の歯ブラシ 中)コンパクト歯ブラシ 右)デンタルタフト</p>

●磨き残り箇所がいくつか見られる。



●職員の言葉かけでタフトを使用



●自己評価についての対話



8. 生活目標における観点別目標と評価

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
目標	歯磨きの必要性を意識しながら磨くことができる。	自ら歯ブラシを使い分けて丁寧に磨くことができる。	自らきれいな歯を意識し、より丁寧な歯磨きができる。
評価	○ 丁寧な歯磨きの仕方を身につけることができる。	○ 職員の言葉かけで歯ブラシを使い分けて磨くことができる。	○ 職員の言葉かけなしできれいな歯を意識した歯磨きができる。
目標と課題の成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃の職員の言葉かけや対話指導で、歯磨きをする意義の理解を深め、丁寧な歯磨きの技術を学ぶことができた。(知・技) ・チェックシートや振り返りを通して、本人の丁寧に磨く意識は高まったため、研究当初に比べると磨き残しも減り、自信に繋げることができた。さらに、手鏡やタイマーの他に、本人に合ったサイズの歯ブラシヘッド、これまで使用したことがなかったタフトブラシなど、主体的に選択できる幅が広がった。(思・判・表) ・歯磨きの自己流マニュアル作成を通して、自主的に歯磨きをする動機付けの一つになった。(主体的) <p>【課題】(目標達成の為に今後すべきこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・染め出しやチェックシートなど継続した取り組みを通して、丁寧に歯磨きをする意識や技能の定着。(知・技)(思・判・表) ・自己流マニュアルのさらなる改良と、柔軟的な活用。(主体的) 		

9. 実践研究を通しての成果と課題

(成果)

今回の実践研究での成果として、改めて研究対象である生徒の実態把握を行ったうえで、目標設定することの重要性を再確認できた。グループ間で改めて実態把握を行ったことによって、本人にあわせた教材・学習方法を共有できた。また、教材としてパソコンや動画など、情報機器を活用することで本人の理解を促す効果を得られた。情報教材を選別する上で、歯磨き指導に関する情報収集や情報交換を行ったことで、資質向上に繋がり、職員間で指導・支援方法についての意見共有を図りながら生徒全体にも還元できる内容になったと思う。

(課題)

課題としては、研究を進める以前に、職員一人一人が本人の理解度や生活経験について詳細に把握した上で取り掛かる必要性を強く感じた。本人の理解度についての把握が甘かったため、歯ブラシを本人に合ったものに変更する目的の理解を深めることができなかった。併せて、タフトブラシの使用方法についても、実際使用する場面で具体的な使用の例示をしなかったことは反省すべき点だと考える。

また、他生徒と異なる活動を行ったため、本人へ負担を感じさせた部分もあり、内面等の配慮すべき点に重点を置いた指導方法を工夫する必要性を実感した。本人が自信や達成感を得られるように、自己評価方法や前向きな気持ちで歯磨きに取り組めるような指導・支援を工夫する必要がある。歯磨き満足度の自己評価に関しては、口頭でのみ確認したため、本人が目視確認でき、尚且つモチベーションを保てるようチェックシートに組み込んだ方が良いと感じた。

さらに、職員間の連携についても、研修以外の通常業務との兼ね合いが難しく、各々の分量が偏ってしまった部分があった。研修への取り組みと日頃の業務内容とのバランスをいかによって研修を進めていくか考えなければならない。

生活目標：「テーブルの布巾がけを行う」

メンバー：大原広喜、伊佐光代、川満管子、島袋義規

対象舎生：高等部 C さん

1. 生徒の実態

入舎7年目。コミュニケーションについては、構音が難しいところも多いが、身近なことであれば1語文を使うことができる。目と手の協応については、ある程度できている様子があり、折り紙をちぎって好きな場所に貼ったり、アイロンビーズに取り組んだりすることができる。

布巾がけについては、職員の言葉かけで取り組んでいる様子があり、手の届く範囲を拭いて終えようとする。

2. 生活目標設定の理由

本生徒を対象にした際、グループのメンバーで設定する生活目標は「卒業後もできる活動を取りあげよう」、「日常的に行っていることに焦点をあてよう」ということになった。昨年の実践を振り返り、寄宿舍の生活の中で「布巾がけ」という活動は自分の机において朝食と夕食の2回あるため、身近で日常的に行っているものであると確認できた。その上で、Cさんがもう少し意識して、丁寧にできそうなこととしてとらえ、支援するこちら側がその「もう少し丁寧に」という内容を具体的に意識していくために、今年度も引き続き取り組むことにした。

3. 生活目標における観点別目標

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
目標	・布巾がけをすることが自分の役割であると理解している。	・机の上下の始点と終点や机上の物を持ち上げる等することに気づいて布巾がけができる。	・自分から隙間無く布巾がけをしようとする。

4. 指導計画と評価計画

主な活動	評価の観点		
	知識・技能	思・判・表	主体的
①毎日の食後に取り組む事を確認する。	○		
②避けるべきものを片付ける。		○	
③目印を見て、始点と終点を意識して拭く。		○	○
④上記③の目印をより簡易なものにする。		○	○
⑤上記①～④なしで布巾がけをする。		○	○

※上記③の目印として、Cさんが布巾がけするスペースにマスキングテープで縦のラインを引いた。

5. 評価基準

知識・技能	◎言葉かけなどなしで、自分で布巾がけをする。 ○職員から言葉かけをして布巾がけをする。 △職員の言葉かけや手添えなどの促しで布巾がけをする。
思考力・判断力・表現力	◎自分で机上の物を持ち上げる等して、上下の端を意識して布巾がけをする。 ○自分で机上の物を持ち上げる等して、目印を見ながら布巾がけをする。 △職員が机上の物を持ち上げる等して、手添えをしながら布巾がけをする。
主体的に取り組む態度	◎言葉かけなどなしでも、隙間無く布巾がけをしようとする。 ○職員の言葉かけで隙間無く布巾がけしようとする。 △職員の言葉かけや手添えで隙間無く布巾がけをする。





6. 生活指導改善のポイント






昨年度の研究の課題より、よりポイントを絞って生活指導改善に取り組むために、観点別目標や評価基準以外にも、以下の通り実践するときの方法について整理してみた。今回対象とした生徒については、ワークシート等での生徒自身の振り返りについては実態に沿っていないと判断したため、活動内容の段階が進むごとに本人と目印の内容や、言葉かけによって確認をしながら進めることとした。

	方法	観点との関連
主体的	①布巾がけについて知る。	「知識・技能」
対話的	①布巾がけの時に目印をみること、始点・終点について職員と一緒に確認していく。 ②ティッシュ等を持ち上げて拭くことを確認する。	「思考・判断・表現」
深い学び	①布巾がけをする際の目印を見ると布巾がけしやすいことに気づく。 ②目印が少なくなっても、布巾がけに取り組んでいることに気づき、最終的には、目印のないところでもできることを目指す。	「知識・技能」 「思考・判断・表現」 「主体的に学習に取り組む態度」

7. 研究の実践


Cさんの食事介助に入った職員が、チェックシートを用いて、布巾がけを「布巾がけスタート」、「ティッシュ等の持ち上げ」、「目印を見ているかどうか」という内容に分け、さらに内容ごとに「手添え・言葉かけ・自分から」と支援等を3点に分け、備考欄にそれ以外の本人の様子を記録していた。「4. 指導計画と評価計画」で設定した、活動内容については達成できるごとに進んでいくものとし、日付の欄に該当する活動内容の番号を記入した。備考の記述において、活動内容の段階の判断や評価に関連する主な部分に下線をひいた。なお、本校寄宿舎では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、8月17日より9月11日まで分散在舎することになったことをうけ、他グループと実践期間が同一ではない部分がある。

日付	スタート	ティッシュ等	目印の目視	備考(その他の様子)
7/27(月) 活動①	言葉かけ	手添え	手添え	職員が目印に沿って拭くことを説明しながら、実際に拭くところを見せて始めた。目印を目で追えている時は始点・終点を意識できている感じあり。
		 <p>↑ 始点を見ることが多く同じところを繰り返し拭くことが多かった。(7/27)</p>		<p>指さしで直線的な動きや始点・終点について示すと見続けることもあった。(7/27) ↓</p> 
7/28(火) 活動②③	言葉かけ	自分から	自分から	当番としてのティッシュ片付けを終えて、布巾がけ。 <u>目印を見ながら拭いている。</u>
7/29(水) 活動②③	言葉かけ	言葉かけ	自分から	当番のティッシュ片付けを忘れている。目印に沿って拭くことができた。
7/30(木) 活動②③	自分から	言葉かけ	言葉かけ ・自分から	目印は最初自分から見ながら拭いていた。拭いていくうちに目印を見なくなったので言葉かけをした。
7/31(金) 活動③	言葉かけ	言葉かけ	言葉かけ	今日は目印を意識しきれていない様子があったため、指さしで始点・終点を確認した。
8/18(火) 活動③	言葉かけ	自分から	手添え	言葉かけのみで始めたため、なんとなく拭いている様子。改めて、目印については指さしで確認した。 <u>目印がない場所については、指さしの位置にのみを拭き、直線的に始点・終点を意識することは難しかった。</u>
		 <p>↑ 目印のないところは軽く拭いている。目印はあまり見ていない。(8/18)</p>		<p>職員は指さしをしているところをよく見ており、直後にそこだけを拭こうとした。(8/18) ↓</p> 


日付	スタート	ティッシュ等	目印の目視	備考(その他の様子)
9/4(金) 活動③	言葉かけ	なし	自分から	最初は目印を見ないで大まかに拭いている。特に言葉かけをしていないが、途中で目印に気づいたのか、 <u>目で追って拭き始めてからは直線や上下の端を意識している様子だった。</u>
9/8(火) 活動③	言葉かけ	自分から	言葉かけ	目印はしっかりと見ているが、座ったまま始めたため、届くかギリギリという様子あり。
9/9(水) 活動④	言葉かけ	自分から	自分から	目印をよく見るようになってきているため、 <u>一部始点から半分を取り外してみたが、しっかりと見て行っている。</u> 本人から残りも半分外したいといった意思表示があったため、終点から半分のみ目印を残している。
		 <p>↑ 完全な直線もあったからか、始点も意識できていた。(9/9)</p>		<p>目印のスタート部分から拭き始めていた。 (9/10) ↓</p> 
9/10(木) 活動④	言葉かけ	自分から	自分から	目印はしっかりと見ることができているが、 <u>目印のない半分は拭けていない部分あり。</u>
9/11(金) 活動④	言葉かけ	自分から	自分から	前日と同様。何か言いながら拭いている。数を数えようとしている？
9/14(月) 活動④	言葉かけ	自分から	自分から	職員が手で始点からの動きを見せるとある程度目印がないところからも拭けている。
9/28(月) 活動③	言葉かけ	言葉かけ	手添え	久しぶりだった <u>(目印が一直線)</u> ということと、 <u>「スタート」「ゴール」の表示が初めてだったため、説明しながら行った。</u> 本人「スタート」「ゴール」と発声しながらやっていた。
		<p>職員と「スタート」「ゴール」の確認をしたところ、本人もよく見ていた。(9/28) ←</p>		 <p>カタカナもある程度読めるため、文字で表示を試みた。</p> 

日付	スタート	ティッシュ等	目印の目視	備考(その他の様子)
9/29(火) 活動③	言葉かけ	言葉かけ	自分から	言葉かけを行いました。「スタート、ゴール」と言いながら、机を拭くことができていました。職員の場所は職員の促しで拭いています。途中から横向きに拭いていました。
9/30(水) 活動③	言葉かけ	言葉かけ	言葉かけ	言葉かけをしました。布巾を持つとテープの上をなぞるようにまっすぐ拭くことができました。「先生のところもお願い」と伝えると「いち、にー」と数えながら拭いていました。
9/30(水) 活動③	言葉かけ	自分から	自分から	言葉かけをして布巾がけスタートしています。「立ってから拭く」という指示があった方がいいかなと感じました。
10/5(月) 活動③	言葉かけ	自分から	自分から	目印を見ながら「スタート」「ゴール」と確認しながら拭けている。
10/6(火) 活動④	言葉かけ	自分から	自分から	目印を点線にしている。しかし、これまでと変わりなく目印を見ながら「スタート」「ゴール」と確認しながら拭けている。
10/7(水) 活動④	言葉かけ	言葉かけ	言葉かけ	目印を見ている様子があり、自分から遠いテーブルの先まで手をのぼして布巾がけをしていました。
10/8(木) 活動④	言葉かけ	言葉かけ	自分から	自ら目印を見ながら、ゆっくり丁寧に布巾がけを行っていました。職員側は言葉かけで行いました。
10/9(金) 活動④	言葉かけ	言葉かけ	自分から	言葉かけを行うことで、気づき目印ひとつひとつを見ながら布巾がけを行うことができていました。
10/13(火) 活動④	言葉かけ	言葉かけ	自分から	テープをさして「Cさん、これはなんですか？」と聞くと布巾がけスタート。目印を見ながら行いました。職員側は言葉かけしました。
10/14(水) 活動④	言葉かけ	自分から	自分から	点線にそって直線的に行うことができていた。職員の部分は印がないため、指さしが必要。
10/15(木) 活動④	言葉かけ	言葉かけ	記入無し	集中して行うことが出来ませんでした。途中で止まったりしています。目印を見ている様子は無かったけど、机は拭いています。
10/19(月) 活動④	言葉かけ	言葉かけ	手添え 言葉かけ	本人に「何する？」の言葉かけで布巾がけをスタートしました。途中、集中が欠ける場面があったけど、言葉かけで最後までできた。

日付	スタート	ティッシュ等	目印の目視	備考(その他の様子)
10/20(火) 活動④	言葉かけ	言葉かけ 自分から	言葉かけ	<u>「スタート」と「ゴール」を言うことができている。目線も「スタート」と「ゴール」に向いている。</u> 途中、言葉かけが必要な場面もあったが、印がある部分は、印に沿ってできている。
10/21(水) 活動④	言葉かけ	言葉かけ	自分から	始めるのには言葉かけを要したが、目印を見ながら丁寧に言う事ができた。
10/22(木) 活動④	言葉かけ 自分から	自分から	自分から	職員が布巾をさわったら、布巾がけをはじめた。ティッシュは布巾で押しよけていた。
11/4(水) 活動④	言葉かけ 自分から	自分から	自分から	布巾の位置を名前表示まで移動させると布巾がけを始めた。ティッシュ箱は押すようによけていた。
11/5(木) 活動④	言葉かけ	自分から	自分から	布巾を持って自分から始めたが、座ったままの姿勢で初めており、「ゴール」まで届かない部分があった。 <u>「スタート」の時点で“立つ”ことを意識させないといけなかったと感じた。</u>



立って拭く様子。
端まで届く。
(10/19)
←



座って拭く様子。
端まで届かない。
(11/5)
→

<記録や様子から見えてきたこと>

- ・まだ布巾がけのスタートには言葉などきっかけとなる支援が必要である。
- ・目印があると目で見て拭くことは定着してきている。
- ・始点と終点の部分を含んだ点線であれば、目印を簡易にしても隙間なく拭くことができる。
- ・終点から半分の目印では、始点への意識が薄れる。ただし、手で動きを提示するとある程度意識する事はできる。
- ・始点に「スタート」、終点に「ゴール」と文字表記したことは本人として分かりやすかったのか、自分で声に出して確認しながら拭くことが定着してきた。
- ・目印がないところでは、直線的な動きや、始点・終点を意識することがまだ難しい。
(「4. 指導計画と評価計画」で設定した、活動⑤には段階を進めることが出来なかった。)
- ・布巾がけをスタートするとき立った方がよいがそのことについて意識させる必要があった。

8. 生活目標における観点別目標と評価

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
目標	・布巾がけをすることが自分の役割であると理解している。	・机の上下の始点と終点や机上の物を持ち上げる等することに気づいて布巾がけができる。	・自分から隙間無く布巾がけをしようとする。
評価	○職員から言葉かけをして布巾がけをする。	◎自分で机上の物を持ち上げる等して、上下の端を意識して布巾がけをする。	○職員の言葉かけで隙間無く布巾がけしようとする。
目標に対しての成果と課題	<p>(成果) 簡単な言葉かけや文字による支援で「布巾がけ」をすることを理解できていた。</p> <p>(課題) 別のことに気持ちが向いている時などに、促しが多く必要なことがあった。</p>	<p>(成果) 「スタート」「ゴール」と自分で言いながら始点終点を意識していた。必要に応じてティッシュなども持ち上げることができるようになっている。</p> <p>(課題) イスなどで拭きにくそうにしている場面もあったため、環境をどう調整するか、支援する側に課題を感じた。</p>	<p>(成果) 目印があるところでは、隙間なく布巾がけすることを意識できていたが、目印の無いところでは、難しかった。</p> <p>(課題) 目印がないときには、手の動かし方に幅があり、隙間なく布巾がけが難しかった。目印なしでの布巾がけは達成できなかった。</p>

9. 実践研究を通しての成果と課題

(成果)

児童生徒の指導・支援をしている中で、本研究をとおして成果として得られたことは、大きく2つあったと考えている。まず、支援する側が指示やその内容を簡素化することの意識付け、次に、本人が得意としていることで使っている力、すでに持っている力(本研究においては目と手の協応)を日常生活にどのようにしてつなげていくかという視点を持たせたことである。今回の研究で、指示などを簡素化することで、すでに本人が持っている力をその他に応用できるようにしていくことができる程度できたと考えているが、今後、今回の対象生徒以外にも必要な視点であると考えている。

(課題)

本研究の中での課題については、「指示とその内容の簡素化」について、まだ工夫の余地があると考えている。言葉かけによる支援や文字による支援でも、ポイントとなるようなフレーズやきっかけについては、まだ確信が持っていない部分もあり、ここを探し当てられれば、対象生徒がより少ない支援で活動できることにつながるため、今後も考えていきたい。また、普段から日常的に何気なくやっている活動という点で、支援の方法やタイミングなどを細かく確認できていない部分があると感じたが、今後も本人の様子やその変容について職員同士がコミュニケーションする上でのポイントがどういった場面であるのかを見極めていく必要を感じている。今後も、本研究をきっかけに本人の持っている力を日常生活に応用していくこと、さらにそうして積み上げた力をさらに違う活動にも広げていきたい。

また、昨年度の研究の反省であがっていた「生徒自身の学びの振り返り」について、今回は、説明や目印が減っていったことについて確認することで行ったが、今後Cさんの実態に合わせた形でどのようにするとより理解が深まるのか、探していきたい。

3. 本研究の成果と課題

今回の研究にあたり、昨年度の反省を基にレポートの様式に「生活指導改善のポイント」を新たに挿入することで、職員間で指導方法や評価に関する観点等の共通理解を図り、研究を進めることができた。また、視覚的教材や情報機器等を活用しながら、職員との対話や振り返りを通して学びを深めることができたことで、職員の資質向上に繋げることができた。舎内中間・最終報告会にて各グループ実践報告を行い、研究対象児童生徒の指導・支援において情報の共有を図ることができた。昨年度から2年間、指定研究を行ってきたが、グループ間で何度も教材やアプローチの仕方について話し合いを重ねて研究を進めていく中で生活指導力の質を高めることができた。

また、研究についてのアンケートの調査結果で「観点別評価に対する知識や理解は深まりましたか？」との質問に半数以上の職員が「少し深まった」と回答。また「主体的・対話的・深い学びを生活指導改善の方法として取り組むことができましたか？」の質問にも約半数の職員が「少しできた」と回答したことから寄宿舎においても少しずつ観点を明確にした評価については浸透してきている。

一方、本研究を通して改めて職員が児童生徒の実態把握に取り組む大切さや、自信や達成感が得られる指導・支援の在り方を模索する必要性を感じた。また、今回の実践では対象児童生徒に焦点を当てて進めてきたが、他の児童生徒にも必要な内容でもあるので、継続して指導していきたいと考えている。その際、児童生徒が負担にならないよう内面等にも配慮していく。

今回の研究の成果と課題を踏まえ、今後も学部、家庭や地域社会と連携しながら、児童生徒の寄宿舎生活を充実させていく。さらに児童生徒と共に考え・理解しあう姿勢づくりを意識していくことで、将来に向けて「生活の質」を高めていきたい。

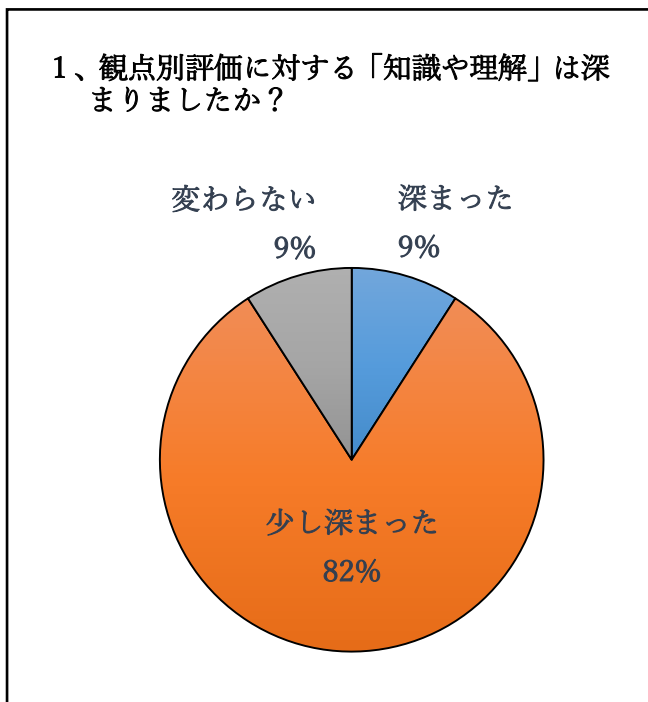


図 2

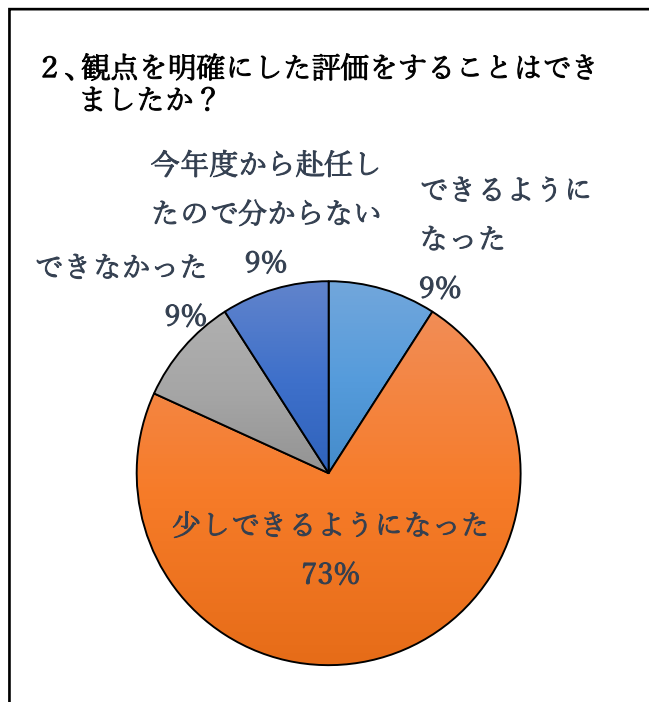


図 3

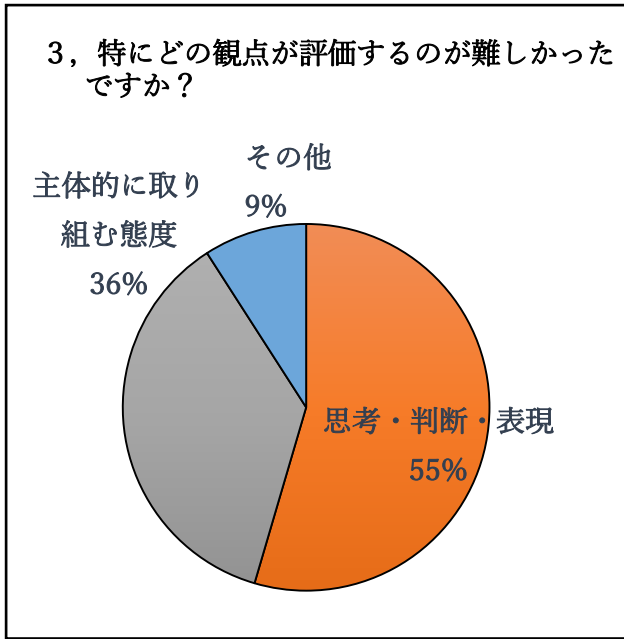


図 4

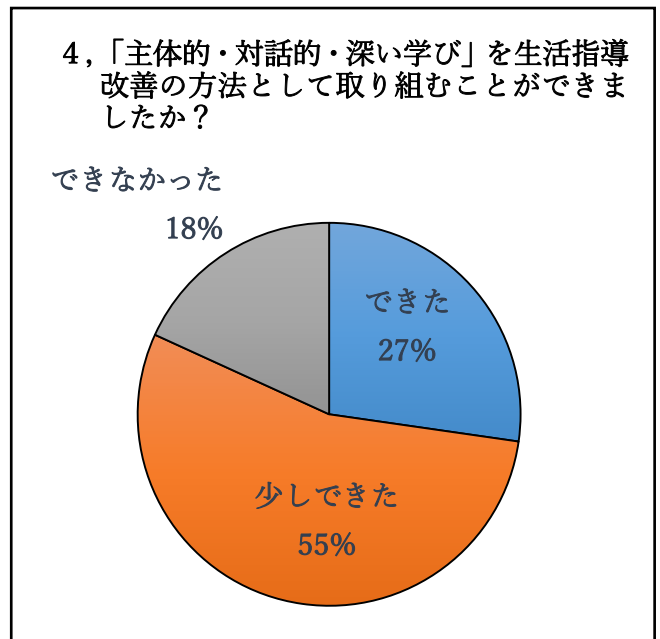


図 5

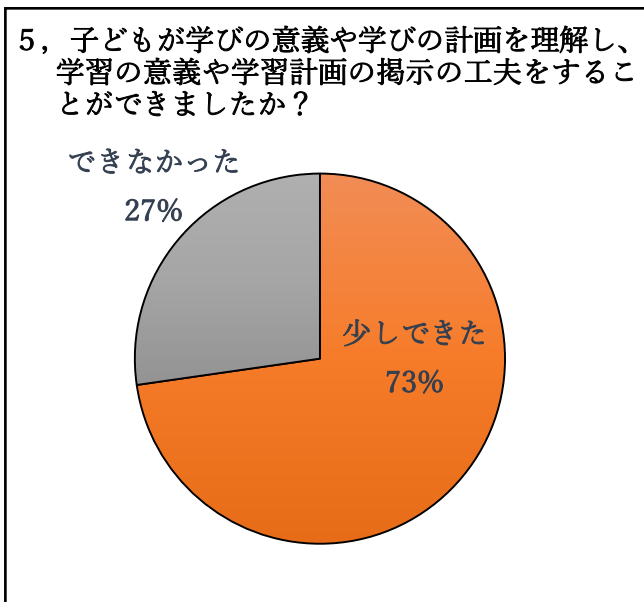


図 6

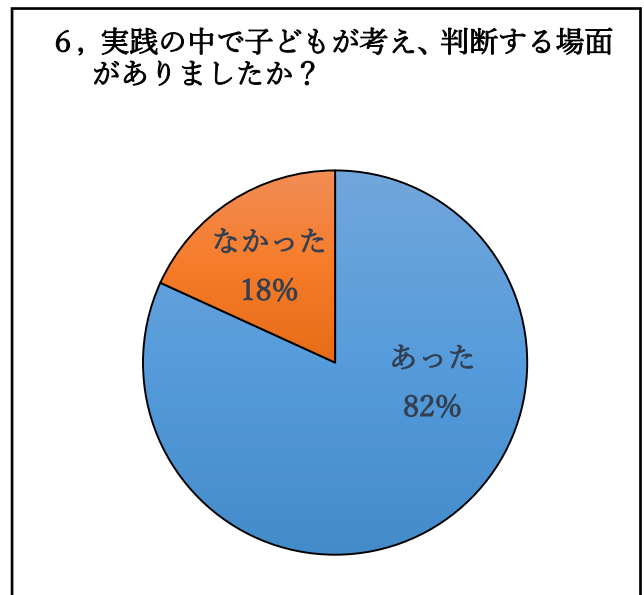


図 7

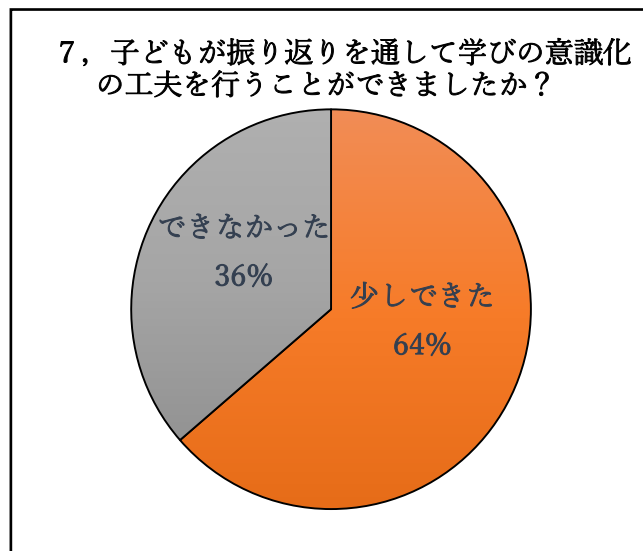


図 8

8. 今回の研修を通して、生活指導を行っていく中で取り組んでいきたいことがあれば記入をお願いします。（日頃から取り組んでいるものでも構いません）

- 本人にとっても必要な内容でもあるので、部屋担当としても引き続き指導していきたい。その際、生徒が後ろ向きな気持ちにならないよう、バランスに注意しようと思う。
- せっかく研修で取り組むのであれば、自分が担当している部屋の生徒について取り組みたいと感じた。
- 「～しなさい」ではなく、「○○だから○○しよう」という風に言葉かけを工夫していく。技術面だけでなく、内面を伴った行動を指導していきたい。
- どんな力をつけさせたいかをシンプルにすること、観点別にした際のバランスが中・長期的に整っていくようにする（その必要があるかは、その都度検討していく）意識はするようになったと思います。